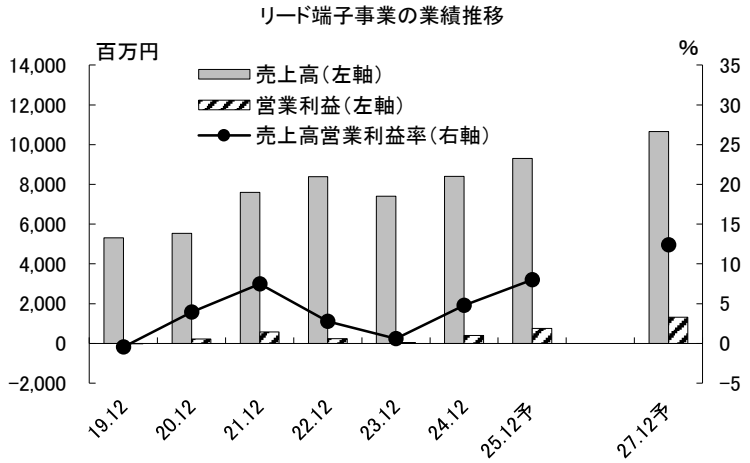
[金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第26号：加入協会…日本証券業協会]

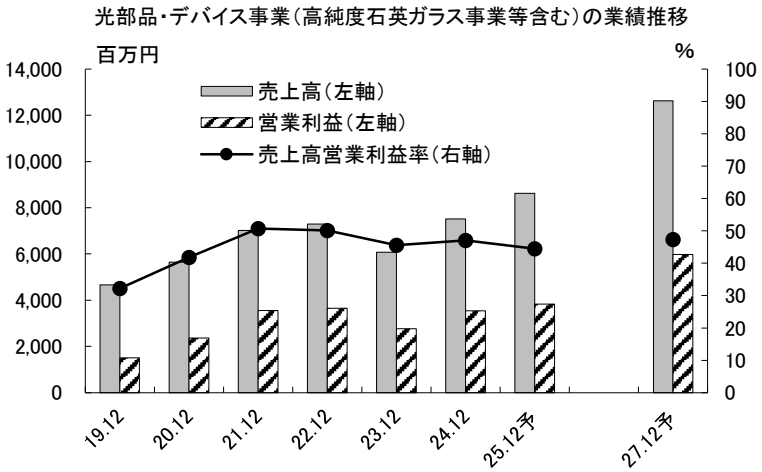
湖北工業（コード 6524）

高純度石英ガラス事業を中長期売上目標100億円超で第3の柱に育成へ

湖北工業（6524）は、既存のリード端子事業と光部品・デバイス事業に高純度石英ガラス事業などを加え、27年12月期に売上高233億円（24年12月期実績比47%増）、営業利益73億円（同87%増）を目指す。

同社では「リード端子」と「光部品・デバイス」の2つの事業セグメントで事業展開しているが、新しく「高純度石英ガラス」事業をスタート。現状、「光部品・デバイス」に含まれるかたちとなっているが、中長期的には年間売上 100 億円超を目指しており、将来に向け「第3の柱」として育成を図っている。





「高純度石英ガラス」事業については、27年12月期に売上高15億円が目標。24年12月に開かれた「セミコンジャパン」に、同社独自の製造技術「スラリーキャスト石英ガラス」（以下、SSG）を使った製品を初めて出展し、米国や日本国内の大手半導体製造装置メーカー、石英ガラスメーカーなどから引き合いやサンプル要求が活発化するなど、各方面から大きな反響を受けている。SSGは、粉体の主原料に副資材を調合して「スラリー」（泥状の混合物）を作成し、型に流し込んで成形後、焼結して作られる。従来、例えばセミ・ドーム形状に高純度石英ガラスを成形する場合、円筒状のインゴットを裁断、切削して同形状へのくりぬき加工を行うため、材料の多くの部分（同社推定では約 75%）を削り取ることになり、多くの材料のムダが生じるほか、切削加工工程の手間が必要となる。SSG ではスラリーを平らな金型に流し込んで板状に硬化したものを焼結。この工程の途中でセミ・ドーム形状になる塑性加工を施すため、多くのムダや切削工程が不要となり、半導体関連装置の高機能化、各種産業機器の省エネ化、さらには二酸化炭素排出量削減への貢献にも期待がかかる。

24年12月期の業績概況…24年12月期の業績は、リード端子事業、光部品・デバイス事業とも23年12月期の落ち込みから回復して好調に推移したことから、売上高、営業利益とも2ケタの増加率となり、売上高営業利益率も22年12月期並みの25%（23年12月期は21%）に上昇した。

当期の業績は、売上高159億2,400万円（23年12月期比18%増）、営業利益39億3,900万円（同40%増）、経常利益48億5,600万円（同54%増）、親会社株主に帰属する当期純利益（以下、当期純利益）32億5,200万円（同71%増）となった。営業外収益で為替差益が7億8,800万円（同118%増）に急増したほか、23年12月期に計上された減損損失2億4,300万円が当期は無かったことなどから、経常利益及び当期純利益は営業利益に比べ増益率が大きくなった。

セグメント別では、リード端子事業が売上高 84 億 300 万円（同 14%増）、営業利益 4 億 300 万円（同 799%増）、売上高営業利益率 4.8%（同 4.2%ポイント増）。光部品・デバイス事業が売上高 75 億 2,000 万円（同 24%増）、営業利益 35 億 3,600 万円（同 28%増）、売上高営業利益率 47.0%（同 1.4%ポイント増）で、両事業とも増収増益、売上高営業利益率上昇となった。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当期末現在の現金及び現金同等物残高は 97 億 9,900 万円（23 年 12 月期末比 6%減）になった。営業活動 CF は、税金等調整前当期純利益 48 億 5,600 万円（23 年 12 月期比 69%増）、減価償却費 9 億 4,700 万円（同 21%増）、売上債権の増加額 6 億 4,000 万円（23 年 12 月期は減少額 6 億 9,500 万円）、棚卸資産の増加額 3 億 600 万円（同減少額 3 億 6,000 万円）、法人税等の支払額 8 億 8,800 万円（23 年 12 月期比 28%減）などにより、38 億 3,600 万円の収入（同 7%増）となった。投資活動 CF は、有形固定資産の取得による支出 14 億 3,300 万円（同 3%増）、定期預金の預入及び払戻による差引支出額 5 億 600 万円（23 年 12 月期は収入額 5 億 9,600 万円）、投資有価証券の取得による支出 5 億 400 万円（23 年 12 月期比 816%増）などにより、31 億 1,500 万円の支出（同 202%増）となった。財務活動 CF は、長短借入金の純減額 9 億 5,300 万円（同 2%増）、配当金の支払額 5 億 3,900 万円（同 9%増）などにより、16 億 3,600 万円の支出（同 4%増）となった

25 年 12 月期の業績見通し…25 年 12 月期の通期業績見通しについては、売上高 179 億 1,900 万円（前期比 13%増）、営業利益 45 億 8,600 万円（同 16%増）、経常利益 44 億 7,400 万円（同 8%減）、当期純利益 30 億 600 万円（同 8%減）となっており、営業外費用において為替差損を 3 億円程度見込んでいることなどから、経常利益及び当期純利益は減益の見通し。

セグメント別予想において、リード端子事業は、売上高 92 億 9,800 万円（同 11%増）、営業利益 7 億 4,600 万円（同 85%増）、売上高営業利益率 8.0%の見通し。また、光部品・デバイス事業は、売上高 86 億 2,100 万円（同 15%増）、営業利益 38 億 3,900 万円（同 9%増）、売上高営業利益率 44.5%の見通しとなっている

◆通期業績推移(連結)（株式分割を考慮。25.12 予は会社側発表値）

決算期	売上高	営業利益	1株純損益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.12	15,673	3,884	115.4	18.3	2,755	▲1,949	▲2,585	9,362
23.12	13,472	2,812	70.6	20.0	3,577	▲1,033	▲1,577	10,439
24.12	15,924	3,939	120.5	30.0	3,836	▲3,115	▲1,636	9,799
25.12予	17,919	4,586	111.4	30.0	－	－	－	－

◆各決算期の中間期業績推移(連結)（株式分割を考慮。25.12 予は会社側発表値）

決算期	売上高	営業利益	1株純損益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.12	7,958	2,042	68.6	0.0	1,197	▲553	▲1,422	10,496
23.12	7,023	1,686	49.8	0.0	1,510	166	▲1,044	10,139
24.12	7,707	1,788	66.4	0.0	1,710	▲311	▲1,276	10,865
25.12予	8,344	1,920	40.1	0.0	－	－	－	－

（CF＝ｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰ。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円）

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。